

## [5] 支部だより

## 北海道支部

支部長 (54, 56) 川合紀章

北海道支部は、北海道に在住、在勤している卒業生約40名で組織されています。

今年度の支部会合を7月13日(月)に札幌市内で、18名の会員の参加を得て開催し、大いに交流を深めました。

参加者は、久保田順三氏(31)、高谷弘氏(34)の大先輩方をはじめ、多摩美術大学 白井幸彦支部長(43, 45, H13)、清水建設 山中庸彦氏(53, 55)、鉄建建設 酒井喜市郎氏(54)、寒地港湾技術研究センター 川合紀章(54, 56)、北海道 坂野雅人氏(62)、北海道開発局 西村浩二氏(61, 63)、北海道大学 石川達也氏(62, H1)、東京工業大学 山田菊子氏(H1, H3)、寒地土木研究所 林憲裕氏(H5)、北海道開発局 本田肇氏(H8, H10)、北海道大学 磯部公一氏(H14, H16, H19)、北海道開発局 熊野哲也氏(H15, H17)、同 貴田勝太郎(H16, H18)、同 大塚健太氏(H19, H21)、寒地土木研究所 阿部孝章氏(H20, H22)、北海道開発局 山川貴大氏(H25, H27)の18名でした。



会合では参加者皆さんからの近況報告があり、和気あいの雰囲気が進められましたが、最後に白井支部長から長年続けてきた支部長を交代したいというお話があり、私、川合を新支部長に指名いただきました。

白井先輩におかれましては、平成10年に北海道支部長にご就任以来、17年の永きにわたり北海道支部を支えていただきました。支部の会合も昔は10名に至らないような時期もありましたが、今では幅広い年代の会員が20名近く参加されるなど活気のある支部となっており、白井支部長のこれまでのご功績に深く感謝する次第です。

今後は、長年評議員をしていただいた久保田順三氏にかわり白井氏が高谷弘氏とともに評議員となられ、このお二人と幹事の山田菊子氏をはじめ多くの方々を支えていただきながら、北海道支部の活動に取り組んでまいりたいと思いますので、北海道内で活躍されている支部会員の皆様には、引き続きご協力とご支援をよろしく申し上げます。

## 東北支部

幹事 (H5) 和田宙司

東日本大震災から約4年半が経過しました。沿岸部では鉄道の復旧も進み、3月21日には石巻線が、5月30日には仙石線が全線再開しました。さらに、仙台～石巻間には、東北本線と仙石線を乗り入れる「仙石東北ライン」が新たに開業し、震災前に比べて仙台～石巻間が約10分短縮されました。常磐線も一部代行バスを含むものの1月30日に全線運転が開始しました。また、常磐線に沿って運行されている高速バスは、常磐自動車道の山元IC～浪江ICが平成26年12月6日に開通したことで、仙台～原ノ町間で最大40分も短縮されました。気仙沼線や大船渡線はBRTでの仮復旧がなされており、現在、地元ニーズを踏まえた復旧の形が検討されている状況です。いずれ、被災路線の全復旧にはいたっていないものの、着々と交通の便が改善されています。

さて、本題の東北支部の活動状況ですが、1月21日に新年会を開催しました。古株の方、新規加入の方と交じり合い、わきあいあいと飲み会しました。東北は地方であるとともに、復興需要に伴う人の流れにより、毎年の会員の出入りが激しく、なかなか会員全員を把握できない状況ではありますが、友達紹介という昔ながらのネットワークで会員名簿を構築しています。京土会東北支部はこれからも、気軽に参加できるフレンドリーな活動を続けて行きたいと思えます。



新年会写真 (H27.1.21)

## 東京支部

代表幹事 (49) 福本勝司

ご紹介いただきました東京支部の代表幹事をいたしております、昭和49年卒業の福本でございます。本日は大石支部長の代理としまして、支部からのご挨拶をさせていただきます。京土会前会長の松岡譲教授にはこの一年間、京土会の活動の発展にご尽力いただきまして有難うございました。これからの一年間は小林潔司教授のもと、本部、支部が一体となって益々京土会が発展していきますようよろしくお願いいたします。



皆様におかれましてはマスコミを通じて、すでにお聞き及びのことも多いと存じますが、東京周辺はインフラ整備が活発に行われておりますので、この一年間の出来事につきまして簡単に触れさせていただきたいと思えます。

先ほどの深沢部長のお話にもありましたように、3月に北陸新幹線が開通いたしました。当日の指定席は売り出し直後に完売という人気でしたが、私の周りの人にも新幹線を利用して、富山、金沢に観光に出かけられる人が沢山おられます。大量輸送、手軽に利用できるということからの人気と思えますが、インフラ整備も目的によっていろいろな方策があることを改めて認識いたしました。

オリンピックの東京開催に合わせて、国立競技場の建て替えが始まっておりますが、ようやく解体工事に着手したものの、新しい競技場については設計が確定しないと共に、東京都の建設費の負担についてもいまだ議論されているところです。また、コンパクトな五輪というキャッチフレーズで始まりましたが、最近の報道ではセーリングは湘南に、フェンシング、レスリングは千葉に移るということですので、工程通りに整備をすること、選手の脚の確保などロジスティックが重要になることから建設マネジメントの重要性が認識される状況になると思っております。

オリンピックに合わせてという訳でもありませんが、東京周辺では高速道路網の整備が一斉に進められております。その中で特筆すべき出来事は、首都高品川線3月7日開通、中央環状線が全線開通です。中央環状線の開通により新宿から羽田までの所要時間のばらつきが30分から15分に減少し、普段は30分で新宿から空港に行けるようになりました。内環状線の渋滞回数が減少し道路のネットワーク化の効果が顕著です。開通1か月後の調査で都心環状線の交通量が5%減少(39万台/日⇒37万台/日)渋滞損失時間は中央環状線内側で約5割減少、首都高速全線で約4割減少しました。言葉でいうと「そうか。」と感じるだけですが、私は仕事でよく品川から霞が関の間を利用するのですが、今まで渋滞に巻き込まれることが多く、40分かかっていたところが20分で行けるようになったのは画期的なことです。しかしながら、このようなことがマスコミではあまり取り上げられていないのが非常に残念です。悪いことはすぐに取り上げられるのですが、インフラ整備の劇的な効果などは

話題性がないのか、あまり取り上げられません。我々がもっと発信していかなければならないと思っております。

それ以外に、外環道の発注がなされ、建設が始まっております。3本目の環状道路で、完成の暁にはその効果のほどがどれほどのものになるか楽しみです。それ以外にも神奈川で建設が進み、横浜環状北線が2016年度の開通を目指しているほか、横浜湘南線、相模縦貫、横浜北西線などの工事が発注される予定です。

また、リニア新幹線の発注が始まります。今世紀最大級の民間プロジェクトで、昨年12月17日に東京と名古屋で安全祈願式が行われました。標高3,000mの南アルプス越えのトンネルのうち山梨工区を今秋にも発注する手続きを進められております。

去年は土木学会創立100周年を迎え、各支部では様々な催しがおこなわれ、11月には東京で記念式典が開催されました。記念式典には皇太子殿下をお招きし、祝賀会を合わせて延べ2600名が参加いたしました。普段は土木の行事は一般紙に取り上げられないのですが、今回は一般紙にも取り上げられております。

このように、少しずつではありますが土木が再び脚光を浴びてまいりました。このような時にこそ10年先を見据えて施策を考えることが必要だと思います。防災・減災は言うまでもなく、公共投資の伸びが見込めない中で、維持・管理が増加するという質の変化が予測されます。国土交通省でも、多様な発注方式の活用、担い手確保、生産性の向上、インフラ輸出などへの取り組みが進められておりますが、その中でも、先ほどの役員会でも話題になりました、若手技術者の減少は大きな問題であると思えます。

それに対しまして、産業界では明確なキャリアパスを示すこと、特に海外志向の若者に対するキャリアパスの明示が必要であると考えます。また、大学と産業界の連携が益々必要になってくると思えます。また、先ほどの中央環状線の話でもそうですが、マスコミ任せでなく、我々が若者へのアピール、真の土木の姿を伝えるための広報が今まで以上に必要になると思えます。土木学会でも「広報センター」が設置されますが、それにもまして個人による情報発信、大学よりの情報発信をお願いしたいと思います。産業界もちろん情報発信いたしますが、イメージが悪くなった建設業界が何か言うとすぐに胡散臭い目で見られますので、大学からの発信をお願いしたいと思います。

次に京土会東京支部の活動ですが、東京支部は会員数3,504人という大所帯でございます。毎年6月に総会を開催いたしておりますが、今年も6月1日に品川の京都大学同窓会館で支部総会を開催しました。小林潔司教授、金哲佑教授をお招きして大学の近況についてご紹介いただきました。今回から参加費を下げたこともあり179名の参加がありました。(S40卒業まで5千円、S41からH12まで7千円、H12からH26まで2千円、新会員無料)総会後の懇親会では各界でご活躍されている京土会の卒業生からご挨拶を頂きました。政界から参議院議員の前田武志先生、佐藤信秋先生、衆議

院議員の井林辰憲先生、官界から国土交通省の小池剛国土地理院長、大脇崇港湾局長、清水喜代志都市局技術審議官の皆様からご挨拶を頂きました。また、今回ご出席いただけませんでした。太田昭宏先生が国土交通大臣として日本の土木界を引っ張っておられます。

最後になりましたが、京土会事務局の皆様にご挨拶申し上げます。京土会会員の皆様のご活躍、ご発展を祈念いたしましてご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

## 千葉支部

### (40) 前川 行 正

1) 京土会千葉支部も発足して今年でちょうど25年目となりました。

本支部の懇親会は、年1回千葉駅近くのこじんまりしたレストランを貸し切って行っております。今年は3月12日に懇親会を開催致しました。通常、20～25名程度の参加ですが今年は若干少ない17名の参加であったためそのレストランをパーティションで仕切る形となりましたが、むしろ、全員が一つのテーブルで歓談できアットホームな雰囲気での会が進みました。

とはいえ、学部卒業後50年を過ぎた人から、卒業直後のフレッシュマンはいないながらも、卒業後10年の若者もいて、年齢のギャップがあっても、それぞれの近況報告を時間制限なしで行ううちにすっかり懇親会ムードは高まりました。

会の終わりには、「琵琶湖周航の歌」を全員肩を組んで、現在も現役で音楽活動をしているHi氏の指揮・伴奏(ただし、口音頭)にて、蛮声を張り上げて合唱しました。



2) 以下は出席者のコメントの一部をご紹介します。

ST氏は、「場馴れした様子で、近況報告の標準よろしく、後にコメントする諸氏の手本となる三点について話した。

① 仕事のこと、② 社会活動そしてボランティア活動のこと、③ 趣味(学生時代からつづけている能は、現在もやっている)のこと」

SY氏は、「学生時代渡米したが、当時(50年前)は出国

手続きが至難のことであったことを披露した」

Y氏は、「生まれは越前ながら現在は佐倉に住んでいるが、佐倉の水は非常に美味である、また、最近の仕事の一例として、今年の北陸新幹線開業に向けて国土交通大臣との検討懇談会に参加した」

MT氏は、「① 労働省出身で週3日出勤し、連日100枚程度の名刺配りである、② 音楽への興味を生かし、コーラスグループの指導や作曲をやっている、③ 千葉県若葉区にある乗馬倶楽部で、週1回程度乗馬トレーニングしている」

Hi氏は、「週4日日本橋や築地の癌センターへ行き、癌患者に対して、生活指導や精神的な励ましなどのコンサルティングを行っている」

NA氏は、「一応悠々自適の生活ながら、京都にもある自家と千葉の自家とを、往復している」

Hu氏は、「趣味の長い陶芸家生活で、全国陶芸展で入選するなどし、個展を開催しても、作品は良く売れ、個展経費程度は捻出できるという。また、埼玉県川越市の趣味の店に作品がおいてある」

Ha氏は、「川崎製鉄退職後第二の人生として、同社の子会社の社長をしており、苦勞が絶えない」

Tu氏は、「会社生活の終盤になりましたが、子供は、もう大学生となりました。41歳になってから空手を始め、20年近くなります」

Sa氏は、「岩垣研出身・スキー部出身です。今年久しぶりにスキーに出かけました。昔はスキー板は長くてゲレンデも凸凹であったが、最近スキー板は短くゲレンデは平らで滑りやすくなっていて十分楽しめました」

U氏は「神奈川県にある運輸港湾研究所時代に、そこから東京湾を隔てて、対岸にあたる君津にマイホームを求め、船で通勤していた。現在、土木学会の合唱団に所属して、適宜歌っている。また、運動が好きで、テニスは定期的に行っているし、マラソン(フルマラソン)大会にも出場し、制限時間ぎりぎり帰ってくる事ができる」

Na氏は「これからは反骨と清貧の視点から世の中を理解し眺めていくことにする。毎日の生活は、碁を楽しむことと畑でサツマイモ作りに時間を注いでいる」

W氏は「50歳を過ぎてもサッカーを続けている。先日、国立競技場の最後(2020年オリンピックに向けて、リニューアルするため)ということで、特別プレーすることが出来た」

Ta氏は「妻と娘2人の4人家族、今年で次女の中学お受験の相手から開放されようやく自分の時間が持てそうです」  
U氏は「最近結婚しました」

M(前川)は、「今後も日本画に精進していきたいと考えている」

3) 会を閉じるの前に、全員で歌う「琵琶湖周航の歌」は京大生の愛唱歌でもあり、加藤登紀子が歌ったりして、皆がよく知っている歌ではあるが、千葉支部懇親会にいつもゲスト参加頂いているNaさん(薬学部卒—千葉県に勤務しておられたご縁。今回はご欠席)が追加作詩してくれたもの

をも歌うこととしているのだが、それがなかなかの美しい詩で、全員気に入っている。最終番（第12番）を以下披露する。

『 早や世を去りぬ わが友の  
言霊残る 浮御堂  
やがては現身 脱ぎ捨てて  
ふたたび語らん 天の国 』

今後も、引き続き京土会会員の集いの場として活動していければと考えております。

## 新潟支部

支部幹事 (51) 曾 根 隆 夫

新潟支部の近況をご報告いたします。

近年地方創生が強く叫ばれておりますが、政府の政策もなかなかその効果が顕われていないのではないかと思われる新潟です。当支部もその影響でもないのでしょうかが会員が減少しております。昨年は松原裕氏（57）が国交省大臣官房審議官に、森田信吾氏（57）が大成建設社長室経営企画部長に転出されました。転入の情報がないのが寂しい限りです。

さて、新潟県にはご存じのとおり長野県の千曲川を源流とする322kmの日本一の長さを誇る信濃川が流れています。1896年に“横田切れ”という信濃川の堤防決壊による大洪水で25000戸の家屋が流出しました。この対策として大河津分水が建設され1922年に完成しました。長い年月が経て施設の老朽化が進んだため改修工事が行われ2011年には新可動堰が完成しました。しかし他の部分も機能が低下してきているため2032年の完成をめざし、事業費1200億円をかけ第二床固の改築、河口山地部の拡幅、低水路の掘削、堤防の強化がなされるということです。これにより戦後最大規模の洪水にも対処できるといわれています。

今年9月より新潟市内中心部では新交通システムBRT（BUS RAPID TRANSIT）が運行されます。市民の中でその利便性において賛否両論がありますが、真っ赤な2連節バスが“水の都”新潟を走ることによって町並みの様子が変わり、訪れる人が増えることを期待しています。皆様もこの機会に海の幸、山の幸が豊富で美人の産地といわれる新潟へどうぞお越しください。

## 東海支部

支部長 (38) 三 木 常 義

東海支部は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県に住所・勤務地がある会員を対象とし、毎年度総会を開催しており、今年度も6月11日、名古屋国際ホテルにおいて開催しました。会員約50名が参加するとともに、本学の工学研究科社会基

盤工学専攻から八木知己教授と山本貴士准教授にお越しいただき、交流を深めることができました。

総会開催にあたり、まず八木教授からご講演をいただきました。京都大学の海外展開への挑戦・奮闘の話が大変興味深いものでした。例として、ミャンマーの国家的課題となっている大学教員の増加や教育体制の整備等の課題の解決を目指すJICAプロジェクトにおいて、土木・環境工学分野では京都大学が先頭に立って支援に取り組み、先方の大学教員の本学への受入れ・指導、さらには本学教員による先方の大学での講義を実施していること、一方で学生を外国からも集めるため教員がアフリカを含む世界各地の高校をまわって“営業”しているということ、日本国内でも優秀な学生を集めるため高校などをまわって模擬授業を行うなど、研究に加えて様々な取り組みを行っていることをご紹介いただきました。研究内容である風工学に関しては、風による橋梁の振動の低減、橋梁の腐食要因となる塩分の付着量の低減などの研究の話をお伺いしました。日本では現在、長大橋の建設が一段落しているものの、培った技術力が将来まで保たれるよう研究の継続が必要、というお考えに同感しました。山本准教授からも、総会の場で、母校の現状についてご報告いただきました。

総会は大いに盛り上がり、会員の交流を深めることができました。来年度の総会も楽しみにしたいと思います。

高速道路については、名古屋では昭和45年度から整備が進められた都市高速道路の全線81.2kmが、平成25年11月に開通しました。市内の高速道路は、高速自動車国道である名古屋第二環状自動車道の西南部12kmの完成を待つのみとなっています。

新東名高速道路は、愛知県内55kmの開通が平成27年度に予定されており、新名神高速道路は三重県区間が平成30年度の開通を目途に事業が進められています。これらの区間が開通すれば、東海地域の広い範囲で東名・名神高速道路とのダブルネット化が完成し、互いに補うことにより大きな効果が発揮されることが期待できます。

超伝導リニアによる中央新幹線については、品川・名古屋間の工事完了予定を平成39年とする工実施計画が、平成26年10月、国土交通大臣から認可され、工事が着手されました。名古屋駅は地下に中央新幹線の駅が設置され、拠点性や利便性がさらに高まります。並行して平成26年9月には名古屋市が「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定するなど、中央新幹線開業後のまちを見据えた取り組みが活発になっています。

東海地域におけるこれらの都市基盤の整備は、国全体の活性化につながるものです。安心して豊かな生活を営むことができる社会、国土の均衡ある発展、公共の福祉の増進を目指し、知恵を絞って取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

## 北陸支部

(H4) 市 森 友 明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、平成27年8月現在で88名の会員を有しています。

## 1. 北陸支部第29回支部総会

北陸支部第29回支部総会は、平成27年7月25日(土)、富山市のとやま自遊館で開催されました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から24名の会員にご参加いただきました。

はじめに北浦勝支部長(42, 44, 47)のご挨拶をいただき、その後、開催県である富山県土木部長の林正之様(54)から開会のご挨拶をいただきました。総会では、各議案が順調に審議・承認されました。

## 2. 講演会、懇親会

総会に引き続き講演会が行われ、「国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所の事業概要及び国交省の大規模災害対応」と題して国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所長 松井健一様(58, 60)にご講演いただきました。



平成27年7月25日

ご講演される国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所長 松井健一様

現在勤務されている北陸地方整備局及び富山河川国道事務所の概要や、富山県の常願寺川の治水事業と歴史、最近の話題ICTを活用した国土交通省の災害対応、東日本大震災時の対応等についてお話しいただきました。特に常願寺川の治水事業と歴史については、安政5年の大洪水による引越移住が行われたこと、また松井様ご自身が町名等からその足跡を発見されていることや、当時のタワーエクスケーターを使用した河床掘削の貴重な写真、さらには現在の急流河川の護岸対策工で土木学会技術賞を受賞したこと等をご紹介され、あらためて土木の歴史と技術を感じる内容となりました。また国土交通省の防災事業として、光ファイバー通信網やヘリコプターでの画像伝送システム、テレビ会議システム等を整備していること、かつそれらが東日本大震災で活躍したことをご紹介され、国土交通省の災害対応力の高さを知ることができました。また富山県にも配置されているXバンドレーダーとその効果のご紹介等もあり、

まさに京土会北陸支部総会にふさわしい、土木技術を再認識できる内容となりました。松井様、ありがとうございます。

総会終了後、同館内において懇親会が行われました。富山県を代表して北陸電力(株) 土木部 土木業務運営チーム専任課長 和田康隆様(54)に開会のご挨拶をいただき、(株)金沢舗道 代表取締役 向井健夫様(57)の乾杯で開宴となりました。宴会中は年に一度の顔合わせということで、恒例の各自の近況報告もあり、様々な話題で大いに盛り上がりました。最後に次回開催県を代表し、前田建設工業(株) 関西支店 福井営業所 技術顧問 橋本栄治様(52)のご発声で中締めとなりました。

## 3. おわりに

去る平成27年3月14日に待望の北陸新幹線が開業し、金沢・富山は観光客やビジネス客で大いに賑わっております。他支部の会員の方々にもこれを契機に是非北陸に訪れていただきたいと思います。また富山駅は現在でも工事が継続されており、数年後に在来線の高架化や路面電車の南北開通が完成する見込みです。北陸新幹線は北陸地方のみならず、災害時の太平洋側交通のバイパス機能としての効果が期待されており、日本海国土軸の形成とも相まって、福井県内のルートの早期計画決定と関西までの開通が待ち遠しいかぎりです。北陸地方を含む日本海沿岸地域のさらなる発展のため、我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。以上で北陸支部の報告とさせていただきます。



平成27年7月25日 支部総会出席者の皆様

## 京滋支部

支部長(55, 57) 岩井英人

平成27年度京滋支部長を仰せつかりました京都市都市計画局の岩井です。

京滋支部の支部長と事務局は、京都大学、立命館大学、京都府、京都市で持ち回りさせていただいており、平成26年度の京都大学から引き継がせていただきました。支部長の谷口栄一先生、幹事の山田忠史先生大変ご苦労さまでした。

さて、平成26年度の第38回京滋支部総会、懇親会は平成26年11月14日京都ガーデンパレスホテルにおいて開催いたしました。

当日は、39名の方にご出席いただき、谷口栄一先生から開会のご挨拶をいただいた後、社会基盤工学専攻の八木知己先生と都市環境工学専攻の越後先生から大学からの近況報告と話題提供をいただきました。

また、支部の行事として石原杯争奪ゴルフ大会を11月11日に田辺カントリークラブにて、例年通り、不老会コンペに合流させていただき開催いたしました。

総会の当日、絹川定様（S30卒）から奥田朗様（S41卒）が優勝されたことをご報告いただき、奥田様には、谷口支部長より、優勝カップが授与されました。

懇親会は、加納次郎様（S19卒）のご発声で始まり、終始なごやかなお囲気の中で、歓談を楽しんでいただきました。

さて、今年度は京都市が幹事ということもあり、京都市の近況について話題提供させていただきます。

世界で最も影響力をもつ旅行雑誌のひとつ「Travel+Leisure」誌が行った読者投票「ワールドベストアワード2015」において、世界の人気都市を決める「ワールドベストシティ」ランキングで、京都が2年連続で1位になりました。

「Travel+Leisure」誌は、100万部近い売り上げを誇る月間旅行雑誌であり、北米のリーダー層が主な読者で、世界的にも強い影響力を持つといわれています。今回のベストシティの採点ポイントは、「風景/旧跡・名所」「文化/芸術」「レストラン/食べ物」「人」「買い物」「価値」の6つです。特に、今回は「風景」に関する評価が高かったようです。京都市が平成19年度から強力に推進する、地域の特性に応じた建築物の高度・意匠規制、広告物規制、眺望景観規制等を含む「新景観政策」の成果が実ったものと思われる。

ちなみに、2位はアメリカのチャールストン市、3位はカンボジアのシェムリアップ市となっており、日本の都市でベスト10に入ったのは京都市のみです。

昨年度、京都市を訪れた観光客数は過去最高だった2013年の5,162万人を402万人回る5,564万人に上り、観光消費額も7,626億円で、いずれも過去最高となりました。

外国人宿泊客数は前年の113万人から70万人増え（62%増）、特に台湾、中国、マレーシアからの宿泊客数が2倍以上となりました。

また、京都市内の主要ホテルの平均稼働率も約87%で、なかなか予約が取りづらく慢性的なホテル不足の状況が続いており、宿泊客が他都市へ流れてしまう京都市にとって残念な状況となっております。

今後、円安が続けば、2020年の東京オリンピックの開催へ向けてさらに外国人観光客が増加するものと思われます。

一方で、外国人観光客の圧倒的な増加を市民がすべて快くとは思っていないのも事実であり、京都市会の常任委員会の場でも、観光客のマナーの悪さの問題や、雇用の創出を含む地元への経済波及効果が十分でない等の質問が出て

います。

以上、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

## 奈良支部

幹事（H4）出井惣太

奈良京土会は、奈良県内で勤務または在住のみなさん約200名の方が会員となっています。支部の活動として、毎年、会員の家族や友人も参加いただき、県内の名所旧跡などをゆったりと巡り歩く散策会を開催し、親睦を深めています。

27年度は、4月18日(土)に、奈良県中西部の広陵町、河合町に位置する県営馬見丘陵公園で散策会を開催しました。当日は春の好天に恵まれ、大井支部長以下総勢17名で近鉄池部駅に集合し、ゆっくり20分ほど歩いて、馬見丘陵公園の北エリアに到着しました。公園では、チューリップフェスタが開催されており、来園者も非常に多く、音楽のステージや大道芸、地域の特産物販売などのイベントも開催されていました。みどころは何と言っても、チューリップ30万株のほか、パンジー、ビオラ、ムスカリ、水仙など色鮮やかな花々が咲き乱れた息をのむような華やかな彩りでした。園内では、馬見丘陵公園館の清水館長に、植物の生態や見どころなどについて直接説明、案内いただきました。なかでも、チューリップの球根をオランダから仕入れる話やチューリップの花が散った後でも楽しめる「ネモフィラ」という花の話など、公園の管理にたずさわる館長ならではの貴重な話もうかがいました。また、公園内に復元されているナガレ山古墳を見学するとともに、馬見古墳群の模型で付近の古墳の多さを実感しました。その後、清水館長から紹介いただいたビューポイントで各自持参した弁当を頬張りました。会員相互の親睦を大いに深めるとともに、春を思いきり満喫できる散策会となりました。



来年も、散策会を開催し、さらに会員間の親睦を図りたいと考えています。気持ちのいい親睦の場ですので、奈良県内で勤務されている方、奈良県内に在住されている方は是非ご参加ください。

## 大阪支部

幹事 (53) 竹内 廣行

### 支部活動報告

大阪支部幹事を務めております昭和53年卒の大阪府の竹内です。大阪支部の近況についてご報告いたします。



大阪支部は、大阪府、奈良県、和歌山県の3府県に居住、あるいは勤務されている方々で構成されております。

昨年度の活動といたしましては、支部例会を昨年11月26日にホテルグランヴィア大阪で開催いたしました。当日は、白石先生、今本先生、大西先生、嘉門先生、萩原先生の5名の名誉教授の先生方と木村先生、立川先生、倉田先生の合計8名もの先生方が、また、岐阜大学名誉教授の宇野先生にもご臨席賜りまして、産学官から幅広い世代の会員の方々、約140名のご参加をいただき、交流を深めることができました。

### 幹事交代・異動

また、幹事も交代し、昭和53年卒の奥村組の原田様と、同じく昭和53年卒の私、大阪府の竹内が新しく幹事を務めることになりました。どうぞよろしくご報告いたします。

続きまして、支部会員の主な方々の昨年度総会以降の異動についてご報告させていただきます。

国土交通省近畿地方整備局では、昭和57年卒の池田様が整備局副局長にご就任されました。

大阪府や大阪市では、部局長級の異動はございません。

以上、支部会員の主な異動について、ご報告させていただきました。

### 大阪の近況報告

続きまして、大阪の近況についていくつか報告させていただきます。

#### [エキスポシティ]

まず、民間開発の動きですが、万博公園南側のエキスポランド跡地では、西日本最大級の大型複合施設「エキスポシティ」が本年秋に開業する予定です。ここでは、水族館や日本一の高さを誇る観覧車、シネマコンプレックスなどのエンターテインメント施設、日本初・関西初の店舗が集まったショッピングゾーンなどが配置されることとなって

います。

#### [ガンバスタジアム]

また隣接して、ガンバ大阪の新たなホームスタジアムとなるサッカー専用スタジアムも本年秋に開業の予定であり、これらの開業により、国内外の多くの観光客に来ていただき、万博周辺エリアのみならず、大阪・関西の活性化に繋がることを大いに期待しているところであります。

#### [うめきた地区]

また、JR大阪駅北側で大阪・関西の玄関口に相応しいまちづくりが進む「うめきた」地区ですが、ご存じのとおり、東側の約7ヘクタールでは、一昨年4月に大型複合施設「グランフロント大阪」が先行開業しております。その西側の2期区域の約16ヘクタールについては、今年3月に「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を目標とする、まちづくりの方針が示されたところです。

今後の取組みとして、基盤整備については、今年度、土地地区画整理事業の認可や鉄道の地下化及び新駅設置の工事着手が予定されています。また、まちづくりについては、来年度以降、昨年選定された優秀提案者を対象にして、最終の民間開発事業者を募集する予定であります。

#### [御堂筋モデル整備]

こうした動きの中、行政も、まちづくりに関し様々な取組みを進めています。

先程紹介した「うめきた」地区にも繋がり、大阪の顔とも言える「御堂筋」は、「車重視から人重視の道路へ」という大きな方向性が示されています。本年度から、千日前通りから南海難波駅までの間に於いて、車道幅を縮小し、歩行者や自転車のための空間をつくるモデル整備を実施します。

#### [BID制度運用]

また、制度改革でもまちづくりを後押しします。

大阪市では今年4月、日本で初めてBID (Business Improvement District, ビジネス活性化地区) の制度運用を始めました。

「グランフロント大阪」を含む「うめきた先行開発区域」7ヘクタールのエリアで、そのエリアの民間地権者12社で構成したエリアマネジメント団体「グランフロント大阪TMO」が、制度適用の第1号団体となります。

#### [高速道路]

一方、都市インフラ関係ですが、高速道路については、平成28年度供用目標の新名神高速道路、神戸～高槻間とそのアクセス道路の整備を着実に進めています。

また、阪神高速については、事業中の淀川左岸線2期区間の整備推進を図るとともに、現在、これに続く延伸部分の都市計画決定手続きを進めており、事業化に向けて取り組んで参ります。

#### [鉄道]

鉄道ネットワークについては、大阪東部地域から新大阪へ連絡する「おおさか東線」の整備を、平成30年度末の開業を目標に進めております。

また、インバウンド増加やLCCの成長で、今後も国内外の利用客が増加する関西国際空港への、新大阪、都心部からのアクセスを強化する「なにわ筋線」の事業化に向けた検討も進めているところであり、大阪・関西の成長に必要な広域ネットワークの充実・強化を進めて参ります。

#### [災害対策（南トラ対策）]

次に、災害対策について報告いたします。

南海トラフ巨大地震による液状化で防潮堤が被害を受けることで、大阪府域では約1万ヘクタールの浸水、13万人の死者という甚大な被害が想定されています。経済中枢機能が集積する大阪のダメージは、大阪、関西だけの問題にとどまらず、我が国全体の競争力をも低下させる懸念があります。

この対策として、地震発生直後から浸水する恐れのある箇所、約9kmの防潮堤の液状化対策について先行的に取り組んでおります。

#### [治水対策（安威川ダム）]

治水対策としては、昭和42年の北摂豪雨を契機に計画された「安威川ダム」の建設が本格的に始動しています。

「安威川ダム」は、茨木市、吹田市、高槻市、大阪市に及ぶ広大なエリアの家屋と、大阪-京都を結ぶ国土軸の道路・鉄道の交通網を守る重要な役割を担うものであります。昭和42年の計画策定以来、約半世紀、様々な議論を積み重ね、途中、利水の縮小・撤退による度重なる計画変更を経て、ようやく昨年、ダム本体工事に本格着工したところであり、平成32年度の完成を目標に着実に工事を進めてまいります。

#### むすび

土木を取り巻く情勢は、困難な課題が山積しています。産学官が連携・協力して課題解決に取り組んでいくことが必要であり、京土会の果たすべき役割がより一層重要となってきました。

最後になりましたが、大阪支部といたしましては、今後も大阪・関西の成長に一翼を担えるよう、活動を続けて参りたいと考えておりますので、京土会の皆様方には、今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

## 神戸支部

支部長（52）田 中 稔

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されており、年に1度、支部総会・見学会などを開催しております。昨年の支部総会は、11月19日に三宮のホテルモントレ神戸において、会員約60名の出席のもと開催いたしました。総会には、大学から防災研究所の間瀬肇教授（52, 54）と都市社会工学専攻の松島格也准教授（H8, H10）の両先生にお越しいただき、交流を深めることができました。総会に先立ち、来賓の間瀬肇教授から、地球温暖化に伴う沿岸災害の影響評価などについて、「地球温暖化と海岸災害」

と題してご講演をいただきました。また、同日、中突堤ポンプ場（放流渠築造工事ほか）の建設現場の見学会も開催いたしました。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、広域交流や産業発展につながる基幹道路のミッシングリンクの解消に努めています。

日本の大動脈である新名神高速道路（高槻～神戸）は、平成28年度の供用を目指して、県内全域で建設工事が本格的に展開されています。日本海地域と京阪神都市圏の連携・交流を促進し、地域創生を後押しする、北近畿豊岡自動車道は、八鹿氷ノ山と日高インターチェンジ間の平成28年度供用を目標として、また、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）は、浜坂道路の平成29年度供用を目指して工事を進めています。

大阪湾ベイエリアに集積する産業・物流拠点の連携強化による国際競争力強化に資する、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線及び播磨臨海地域道路などの計画路線についても、早期事業化に向けた取り組みを進めています。

東播磨の臨海部と内陸部を結ぶ東播磨道（東播磨南北道路）は、国道2号加古川バイパスから八幡稲美ランプの間5.2kmが昨年3月に供用し、引き続き、八幡稲美ランプから国道175号の間6.9kmについて、事業を進めています。

また、渋滞交差点や開かずの踏切等の解消を進めるほか、歩行者・自転車の安全対策など、日々の暮らしを支える道路整備にも努めています。

災害対策関係では、南海トラフ地震による津波に備え、防潮堤の整備・補強等の津波対策を計画的・効率的に推進するため、昨年策定した「津波防災インフラ整備5箇年計画（暫定版Ⅱ）」に、本年6月に防潮堤等の沈下対策を追加するとともに、津波対策による浸水想定区域の縮減効果をとりとまとめ、「津波防災インフラ整備計画」を策定しました。平成35年度までに概ね完了を目指します。

一方、頻発する風水害に備え、平成24年4月に施行した総合治水条例に基づき、従来の河川対策に加え、雨水を一時的に貯留・浸透させる流域対策や防災学習・訓練といった減災対策など総合的な治水対策を推進するため、流域圏ごとに策定した地域総合治水推進計画を実行しています。

また、昨年8月の豪雨災害を踏まえ、土砂災害警戒区域の総点検を実施するとともに、「第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画」を拡充し、砂防堰堤等による予防対策を強力に推進しています。

鉄道関係では、本年6月に山陽電鉄本線西新町駅を含む約1.9kmの区間（明石川以西～林崎松江海岸駅手前まで）を高架線に切り替えました。これに伴い、国道2号の仮踏切は解消しました。今後は引き続き仮線路の撤去と駅前広場・側道整備を行う予定です。

港湾関係では、2017年の神戸港開港150年に向けて、中突堤の岸壁を約20メートル延伸しています。中突堤は、対岸の神戸ハーバーランドや六甲山などミナト神戸の風景を

楽しめる絶好の立地にあり、これまでの5万トン級よりひと回り大きい7万トン級の大型外国クルーズ客船が接岸できるようになり、更なる神戸港の賑わいの創出が期待できます。

空港関係では、平成24年7月に経営統合された大阪国際(伊丹)空港と関西国際空港について、国内最大級の運営権売却(コンセッション)の入札手続きが進められており、本年11月頃に優先交渉権者が選定される予定です。神戸空港も含めた3空港一体運営に進む際に速やかに協議できるよう、神戸空港のコンセッションの準備を進めているところ

です。水道関係では、神戸市奥平野工区において大容量送水管を整備しました。これは、大深度地下使用法を全国初適用することにより、ルートを大幅に短縮し、工期短縮、工事費削減を実現したものです。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の復興プロジェクトとして、高い耐震性能と大容量の貯留機能・送水機能を有しています。

また、社会基盤施設の計画的・効率的な老朽化対策を推進するために、兵庫県では、橋梁や排水機場などの主要18種類の施設について「ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画」を昨年3月に策定しました。今後10年間で約2330億円の事業費により計画的な修繕・更新に取り組みます。あわせて、社会基盤施設総合管理システムに点検結果、修繕・更新履歴等のデータを蓄積し、劣化予測等に活用することとしています。

さらに、道路や河川、港湾等の社会基盤施設は、アクセス性の向上や物流コストの低減、水害の防止など、経済活動の効率性を高め生産力を拡大させるとともに、商圏の拡大や投資リスクの減少等により民間投資を誘発し、地域活性化につながるストック効果をもたらすことから、社会基盤整備の主なストック効果事例をとりまとめ、県ホームページなどで広く情報発信しています。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状であります。

本年1月、阪神・淡路大震災から20年を迎えました。近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震など将来の災害に対し被害を最小限に抑えられるよう、ハードはもとより、ソフトの視点からも防災力の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願ひいたします。

## 岡山支部

幹事長 (61) 和田 明

岡山県では、初の民間出身の伊原木知事による県政が3年目を迎え、現在、「もんげー岡山」をキャッチフレーズにPRを行っております。「もんげー」とは、「ものすごい」という意味の岡山弁で、NHK大河ドラマで備中高松藩主 清

水宗治を熱演された宇梶剛士さんをはじめ、岡山出身の女優・タレントの桃瀬美咲さんや歌手の葛城ユキさん、フィギュアスケートの高橋大輔さんを起用し、「晴れの国おかやま」の果物や観光、住みやすさ等、岡山県の素晴らしい魅力を全国にアピールしています。

また、東京には、平成26年9月、東京・新橋に、岡山県と鳥取県の共同アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」をオープンしました。ショップや飲食店はもちろん、長期の利用ができるビジネスブース、商談室、来館者が無料で利用できる無線Wi-Fiサービス等、新たな顧客層であるビジネスパーソンにも着目した機能を備えておりますので、一度、お立ち寄りいただければと思います。

さて、岡山県内の高規格幹線道路は、平成25年3月に、中国横断自動車道姫路鳥取線の開通により、中国縦貫自動車道、山陽自動車道、中国横断自動車道岡山米子線、瀬戸中央自動車道と合わせ、計画路線(約325km)の100%が供用開始となっています。一部に暫定2車線区間が残るものの、ミッシングリンクは既に解消し、全国的には大変恵まれた状況です。

地域高規格道路では、今年3月に、国道2号玉島笠岡道路の第I期区間(倉敷市玉島阿賀崎~浅口市金光町佐方)4.5kmが、暫定2車線で開通しました。長年の懸案であった国道2号の慢性的な渋滞解消に寄与するとともに、沿線の水島臨海工業地帯や玉島ハーバーアイランド(水島港玉島地区)の物流円滑化に貢献し、浅口市内の工業団地計画にも弾みをつけることでしょう。引き続き、笠岡市に至る第II期区間9.4kmの開通が待望されます。

近傍の玉島ハーバーアイランドには、昨年10月、JA西日本くみあい飼料(株)、(株)J-オイルミルズ及び全農サイロ(株)の3社の立地が決定したところです。穀物輸入から食品や飼料等の生産まで関わる3社が一体的に立地して、今後、食料コンビナートを構築します。これは、平成23年に水島港が「国際バルク戦略港湾」に選定されたことにより、穀物を大型の貨物船で一括大量輸送できるようになることが、立地決定の決め手になったものと思われ、今後、大型バルク船舶の入港が可能な航路・泊地の整備が行われる予定です。

また、現在、水島港では、輸送時間の短縮による物流効率化を目的として、水島地区と玉島地区を短絡する臨港道路「新高梁川橋梁」の建設が進行中です。大規模地震時には、同時に事業化した耐震強化岸壁(-12m)と併せ、緊急物資輸送や避難ルートの確保を図るものです。国直轄事業として平成20年度に事業化されましたが、工事最終段階を迎え、平成28年度中の完成が待ち遠しいところです。

岡山支部の近況ですが、会員数は岡山大学、岡山県、(株)大本組を中心に60名前後で推移しているものの、20代、30代の若手会員は10名程度と少なく、高齢化が進んでいます。今春の定期異動などに伴う支部会員の異動で、田井中靖久氏(61、63)、杉原駿一氏(H27)が岡山県に転入されておいでです。当支部では、春・秋の年2回、和気あいあいの雰

会を兼ねた春の懇親会が、教室から田村正行先生と岸田潔先生のお二方をお招きし、17名の方の出席をいただき、開催されました。

最後になりましたが、皆様の益々の御活躍と京土会の御発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。

## 広島支部

幹事 (H5) 加藤 拓一郎

広島支部の近況をご報告します。

今年度の支部総会及び懇親会を、去る7月10日に開催いたしました。

支部会員数は現在106名で、異動・転出などにより、昨年より若干増加となりました。今年度の総会には、昨年度より3名増えて33名の方々にご参加いただき、盛会となりました。

総会では、中川支部長 (S50) 挨拶の後、幹事について、吉田大様、小畑大作様、吉川克明様に代わり、谷川知美様、印居孝之様、及び加藤に交代することを皆様の賛同により承認いただきました。

広島支部総会では、近年は講師を総会にお招きし、自由なテーマでご講演をいただいておりますが、今年度は、会員同士の懇親をより深めていただくため、講演の時間に代えて、懇親会の時間をより多くとることにいたしました。

総会後の懇親会は、中川支部長の乾杯の音頭で始まり、途中、佛原本部評議員による京土会本部総会の報告や、新規加入者の方々などの挨拶がありました。

今年度の新規加入者として、建設技術研究所の松岡利一様 (S61)、広島市の渡田賢治様 (H13)、小川喬之様 (H22)、中国電力の磯田隆行様 (H22) に自己紹介を兼ねた近況報告をいただき、さらなる会員相互の交流のきっかけとすることができました。

今年度は懇親会の時間を多くとったこともあり、参加された多くの会員の方々から近況報告を聞くことができ、例年にも増して会員同士の親睦を深めることができました。

最後は、桑原博一様 (S46) の挨拶で盛会裏に散会となりました。

さて、最近の広島県の状況でございますが、昨年8月20日に発生した豪雨による大規模な土砂災害の被害を受けた広島市北部では、いまだ復旧半ばの状況であります。被災地の復旧、及びハードとソフト両面からの防災対策の整備に尽力されている会員の方も多数いらっしゃいます。

一方、インフラ整備では、東広島・呉自動車道 (高屋JCT・IC～阿賀IC) の全線開通 (平成27年3月15日) や、JRとアストラムラインの接続駅となる新白鳥駅の開設 (平成27年3月14日) など、多方面から交通網の拡充が図られ

ており、今後も広島高速5号線事業などの広域交流・連携基盤の強化に向けた大規模プロジェクトが進められる計画です。

その他の状況といたしましては、今年はメジャーリーグから黒田博樹投手が広島東洋カープへ復帰し、マツダスタジアムではカープ女子を始めとしたファンで連日超満員の賑わいを見せているほか、サンフレッチェ広島は今年度のファーストステージを3位、セカンドステージも好スタートを切るなど、広島のスポート界は大変な盛り上がりを見せております。

広島支部におきましては、今後とも会員相互が一致団結してまいります。

最後に京土会会員皆様方の益々のご活躍と会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし近況報告とします。

## 山口支部

幹事長 (H3, H5, H8) 樋口 隆哉

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入、転出が比較的少ないため、大体が固定メンバーとなっており、その分会員同士の親密な関係が築かれているといえます。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています。あとは県庁関係者が約3分の1、山口大学関係者が約5分の1、民間企業や国交省、市役所が約5分の1となっています。山口支部では、ほぼ毎年1回懇親会を開催しており、会員間の交流を深めたり情報交換を行ったりする上で貴重な機会となっています。

山口県では平成21年7月に防府市、山口市を中心とした土砂災害、浸水害、平成22年7月に美祢市、山陽小野田市、下関市を中心とした大雨による河川の氾濫、住宅損壊、JR美祢線の線路の流失など、2年連続で大きな災害が発生しました。さらに、平成25年7月に萩市、山口市を中心とした大雨による河川の氾濫、家屋浸水や道路、JR山口線の流出が発生し、平成26年8月には岩国市において豪雨による土砂災害が発生しました。幸い今年の梅雨時期には大きな災害は発生しませんでした。上記の災害からの復旧に当たっては、われわれ土木関係者が官・民・学それぞれの立場から重要な役割を果たし、尽力しました。また、来るべき西日本の大震災 (東海、東南海、南海地震など) への備えも県の方針が進められており、私たち会員の多くは安全な地域社会の実現に向けてその中心的な役割を担っています。それらのための情報交換には支部の存在、すなわちお互いが顔見知り、ということがとても役立っています。小さな所帯ではありますが、しっかりと活動を進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



京土会山口支部懇親会にて（平成27年8月29日）

## 四国支部

支部長（51, 54）矢田部 龍 一

四国支部は、四国4県（徳島、高知、愛媛、香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています。至近の会員数は150名前後で推移しており、平成27年5月現在、154名となっています。

四国支部では、例年5月の最終土曜日に支部総会を開催し、本学の先生をお招きして支部会員の懇親を深めています。平成27年度は、本学から立川康人教授と市川温准教授にご臨席いただき、5月30日に香川県高松市内の「高松センチュリーホテル」において支部総会を開催しました。支部総会には支部会員36名に加え、支部外からも1名のご参加をいただき、本学の先生と合わせ39名が参集しました。



支部総会では、まず、久保市郎 前支部長にご挨拶いただき、四国支部の活動を振り返っていただくとともに、四国支部の活性化を図るためのご提案をいただきました。続いて、立川教授・市川准教授から本学の状況として学長の交代や、国際化コースの修業生を初めて輩出できたことなど

を紹介いただきました。その後、懇親会に移り、それぞれが久闊を叙しながら、世代を超えて懇親を深め、最後に参加者全員で肩車をして恒例の「琵琶湖就航の歌」の大合唱で団結を固め、京土会四国支部と四国地方の発展を祈念して万歳三唱を行い、盛会のうちに幕を下ろしました。

四国支部では、支部の活性化や会員同士の連携強化をはかっていますが、過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っております。総会で承認された支部の活性化施策を実施することで、会員同士の親睦を深めるための場である四国支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

四国支部会員の皆さまには職場、学校等で四国支部総会への参加を積極的にお誘いいただくとともに、四国外の皆さまも四国に勤務する機会等がございましたら、四国支部総会にご参加くださいますよう、宜しくお願いたします。

最後に、昨年度1年間における四国支部の転出入状況について、以下、簡単に氏名のみご紹介いたします。

転出者：松本 進 (S28), 村雲 治 (S52),  
 勇 秀憲 (S53, 55, 58), 中條浩憲 (S57, 59),  
 杉本和彦 (S60), 溝口宏樹 (S61, 63),  
 桂 一詞 (H2, 4), 玉野 達 (H4),  
 玉石宗生 (H11, 13), 鈴木淳史 (H20, 22),  
 須藤純一 (H20, 22), 三崎健太郎 (H18)  
 転入者：高橋隆史 (S42, 44), 徳田憲治 (S52: 前田建設),  
 村川浩一 (S52: 鹿島建設),  
 石橋良啓 (S56, 58: 四国地整),  
 風間 優 (S56: 鹿島建設), 山本貴弘 (S59: 大林組),  
 高卯和博 (H5: 西日本道路), 張 浩 (H17: 高知大),  
 美濃雄介 (H13, 15: 西日本道路),  
 片岡由香 (H25: 愛媛大),  
 中村繁貴 (H24, 26: 西日本道路),  
 大野正登 (H25, 27: 四国電力)

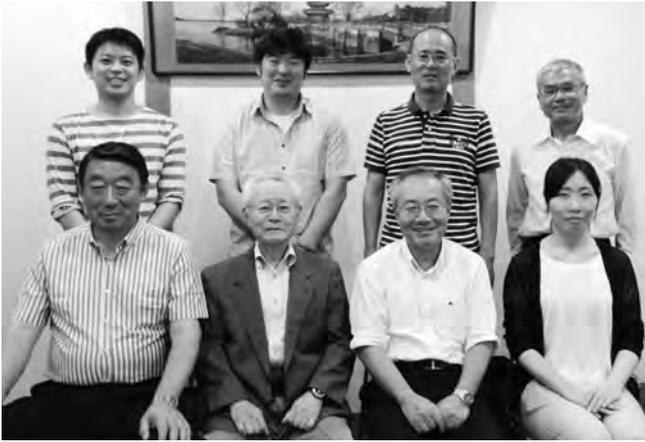
## 北九州支部

幹事 (H21, H23) 福 田 尚 倫

北九州では、官営八幡製鐵所関連施設が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として、本年7月5日に世界遺産に登録されました。街の至るところで世界遺産を祝う垂幕や案内板が掲示され、これまで以上の賑わいを見せています。

また、北九州-大分-宮崎を結ぶ東九州高速道は、この3月にほぼ完成、北九州-大分地域の道路交通の一体化が進んでいます。

支部総会は7月10日に小倉の料理屋で開催（会員24名、うち出席8名）。会合では、各位の趣味の話から土木学科の変遷に至るまで、幅広い話題で盛り上がりしました。



(出席者)

前列・左から 垂水・藤井・垣迫支部長・藤永  
後列・左から 福田・津守・鍵本・森川

### 支部会員短信

藤井 崇弘 (34, 36)

平成20年にリタイア後、満80歳になった。現在、国土交通省の風景街道活動の一環として、北九州-中津-宇佐間の歴史遺産の保存を手伝っている。昨26年10月に、京都での55年会(昼食会)に出席、同期諸兄と近況を語り合った。囲碁は五段で鍛錬中。名人戦など棋士・井山裕太の棋譜を並べ、楽しんでいる。

垂水 國博 (49, 51)

会社に入り34年が経ち、後継のため何か新しいことをやり直したい。健康管理のため、奥さんと2人でウォーキングをしている。

垣迫 裕俊 支部長 (52)

教育の世界に入り1年3ヶ月。昨年は市内の学校213校を全てまわった。教育の現場では日々いろんなことが起き大変。来年1月には孫が生まれる予定。

森川 真一 (54, 56)

水道局にて、水道管の改新工事の仕事をしている。趣味のサイクリングとマラソンを継続しており、健康管理している。

鍵本 広之 (60, 62)

北九州に来てちょうど2年が経つ。石炭灰の海面埋め立て処理と技術開発の仕事をしており、コンクリート工学会論文賞を受賞した。今年の秋にはドイツ、来年はブラジルで発表予定。

津守 嘉彦 (H15)

洞海湾航路の浚渫の仕事をしていた。4月からは市の環境産業振興に携わっている。昨年9月に2人目の子供が生まれた。

藤永 泰佳 (H20, H22)

廃棄物処理プラントの開発・設計業務をしている。これまでは現場勤務が多かった。社会人サークルでバレーボールをしている。

福田 尚倫 (H21, H23)

廃棄物処理プラントの開発業務をしている。仕事の幅も広がり、最近では社会貢献活動にも取り組んでいる。今年度より支部幹事を拝命しました。今後とも宜しくお願い致します。

### 福岡支部

幹事 (H24, H26) 東 章 吾

福岡支部は、北九州を除く九州全域に在住、在勤の京土会会員によって構成されており、毎年総会・懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めています。

今年は、これまで支部長をお勤めになった松葉保幸氏(49, 61)から、新支部長として柏木雄二氏(53, 55)が選任され、新体制のもと、大学から河野広隆教授を来賓にお迎えし、6月5日に福岡市にて支部総会及び懇親会を開催いたしました。

総会では、河野教授より土木系教室の現状と就職状況及び経営管理大学院の状況等に関するお話を頂戴しました。また、九州地方整備局の喜安道路部長(60)より九州の道路整備に係る話題、村岡港湾空港部長(60, 62)より九州の港湾・空港に係る話題をそれぞれご提供いただきました。さらに、初参加の会員の挨拶等もあり、大変な盛り上がりでした。

懇親会終了後に撮影した写真をご紹介します。



支部総会の参加者は以下のとおりです。(敬称略)

三池(29)、小倉(44)、梅木(49)、松葉(49)、柏木(53)、山下(54)、山中(54)、千田(57)、喜安(60)、村岡(60)、長江(H7)、源城(H12)、東(H24)

九州の主な動きに話題は移りますが、道路整備関連では平成27年3月に東九州自動車道の佐伯～蒲江間（20.4km）が開通し、宮崎～大分間の高速道路が全通したことをはじめ、九州の各地で新たな高速道路が開通し、九州の交通ネットワークがますます広がっています。

エネルギー関連では、九州電力は平成25年7月に提出した川内原子力発電所の工事計画認可申請及び保安規定変更認可申請についてそれぞれ平成27年5月に原子力規制委員会より認可が下り、現在は再稼動に向けた工程を進めているところです。

港湾関連においては、平成26年度におけるクルーズ船の寄港回数が中国発注クルーズ船の増加により、日中関係の悪化等の影響を受け大幅に寄港が減少した平成25年度と比較し、約200%の伸びを記録しました。また、今年度におきましても韓国での中東呼吸器症候群（MERS）の感染拡大を受け、当初においても過去最高と予想されていた寄港回数が、さらに上積みされる見通しとなっております。

また、7月5日にドイツのボンで開催された第39回ユネスコ世界遺産委員会において、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」について審議が行われ、九州各地の産業遺産が世界遺産へ登録されることが決定し、九州内の観光の機運が一段と高まってきております。

最後に福岡支部の連絡先についてご案内いたします。懇親会などの支部行事のご連絡は京土会の会員名簿から九州在住在勤者を抽出してお送りしております。ご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記の担当者までご連絡をお願いいたします。

#### 連絡先

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号  
九州電力(株) 技術本部 原子力グループ 東 章吾  
TEL：(092) 726-1760 FAX：(092) 771-9541  
E-mail: shogo\_higashi@kyuden.co.jp